



現在の浮島沼周辺

## =第3回=

冠水して泥海になった  
浮島沼周辺の惨状  
〈「浮島ヶ原開拓史」から〉

昭和6・7年ごろの水害

「富士の災害史」は、過去に市域が見舞われた災害を皆さんに理解してもらい、防災意識を高めていただくため、昨年3月に発行されました。広報ふじでは、定期的に抜粋して掲載しています。

万治<sup>まんじ</sup>3年の水害

浮島沼と沼川で起こった洪水の被害は、大雨により増水した水が滞留し、あたり一面の低地に冠水して湖のようになり、稲などの農作物が水腐れしてしまうものでした。周辺の住居地にも水があふれ、交通が途絶え、舟による交通手段しなくなってしまうほどでした。「浮島」という地名は、田が流される、田が浮いていることに由来しています。

万治3年(1660年)は、まれに見る災害の多い年でした。全国各地で暴風雨が発生し、大きな被害をもたらしました。10月24日の暴風雨で沼川が氾濫して、高波によって潮水が逆流し、沼川周辺の田畑が冠水しました。さらに、川と海から運ばれる土砂によって吉原湊口(現在の田子の浦港)が塞がれ、湖のようになり、6日間も水が引きませんでした。また、吉原湊口には、強い西風で波と砂が吹き荒れ、東に向かって1200メートルにわたる長い砂州(流水により砂が堆積してできる地形)ができました。

今井の妙法寺から吉原宿(中吉原宿:現在の依田橋地区)の東端までは舟を使って往来し、家屋は水浸しになり、農作物は収穫できなくなりました。幕府は、吉原湊口の掘り明けのため、蒲原代官一色内蔵助、沼津代官野村長四郎、加島代官古郡孫大夫の三代官に、吉原湊口の復旧工事を命じました。三代官は、村々から吉原湊口を掘り明けするための人を集め、新湊口を切り開くの力を尽くしました。

## こちら編集室

富士山が世界遺産に登録されて、早いもので1年が経ちました。先月、その記念イベントが市内各所で盛大に行われ、改めて富士山の麓で暮らせることのすばらしさを感じました。その富士山が一望できる田子の浦港では、港について楽しく学んでもらおう

と「田子の浦ポートフェスタ」がことし初開催されます。新鮮なシラスや、港からの眺望のほかにも、まだまだ私たちの知らないよさが隠されています。このイベントに参加し、田子の浦港の魅力についても再発見してみたいかかでしょうか。(若)

人口 257,982人 (前月比-91)  
男 127,512人 (-24)  
女 130,470人 (-67)  
世帯 100,420世帯 (+58) 6月1日現在  
編集・発行 富士市総務部広報広聴課  
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100  
☎0545-51-0123 FAX0545-51-1456

お問い合わせは

富士市コールセンター

おしえて  
ヨールふじ  
53-1111

【受付時間】

8:30~19:00

土・日曜日、祝休日でも受け付けます(年末年始除く)  
※8月から8:30~18:00